



Copyright 2019 by Yoshitaka Nishizawa  
合理的選択モデルと投票行動

投票行動研究の2つの課題

- 投票参加の説明
- 投票方向の説明

2週とおしての課題 (チェックポイント)

- 政策争点を基準に投票できる?
- そのための条件は?
- 第1週の課題
- 政治参加の「天秤モデル」
- 第2週の課題
- 政治参加の合理的選択モデル
- ダウンズの空間モデル

投票参加

- ダウンズのモデル

ダウンズ, A. 1957, 『民主主義の経済理論』古田精司監訳 成文堂, 2,3,8章.

- ライカーとオーデッシュュークのモデル

-  $R = PB - C + D$

- ローゼンストーンとハンソンのモデル

- 個人的要因と政治的要因



合理的人間の要件

- 意志決定能力
- 選好順位付け能力
- 推移的順位付け
- 高順位選択
- 選好の安定性

$$A > B$$

$$B > C$$

$$\text{---} \text{ならば} \text{---}$$

$$A > C$$

投票参加の説明

- 期待政党間差異

$$\text{- I: } E(U_{t+1}^A) - E(U_{t+1}^B)$$

$$\text{- II: } (U_t^A) - E(U_t^B)$$

if 0, not vote; if not 0, vote

- 実績評価

$$U_t^i / U_t^A$$



投票参加の説明

U: 1任期にわたり政府活動から有権者個人が得る効用所得

A: 与党, t期における政権担当政党

B: 野党, t期において政権を持たない政党

t: 問題となっている選挙の前の任期

t+1: その選挙に続く(選挙後の)任期

E: 期待値

(実際にはそれだけの効用があるかどうか分からないが、あると予測できる効用)

◆IとIIの相違

・I: (t+1)の時点で与野党を比較

・II: tの状況において与野党を比較



ダウンズモデルに対するライカー&オーデッシュュークの修正

- R&Oのモデル

$$R = PB - C + D$$

「全員にとってマイナス」ということではない

- ダウンズが注目したのはこのBのみ
- 自分の1票が選挙結果を変える確率(probability)
- 投票にくいにはコストがかかる(cost)
- したがって、PBとCの差として全効用(reward)を定義
- Pとの積であるPBも、また限りなくゼロに近い
- Rは必然的にマイナス ← 誰も投票に行かない
- 実際は投票率がゼロでない



ダウンズモデルに対するライカー&オーデッシュュークの修正

- R&Oのモデル

$$R = PB - C + D$$

- 日本(横浜市戸塚区)についての事例研究

- 「地方選挙における投票率—合理的有権者の投票行動」 『都市問題』 第82巻、1991年10月号



Rosenstone&Hansenモデル

- Rosenstone, Steven J. and John M. Hansen. 1993. Mobilization, Participation, and Democracy in America. New York: Macmillan.

- 個人的要因

- 政治的要因 (政党の戦略的な動員)

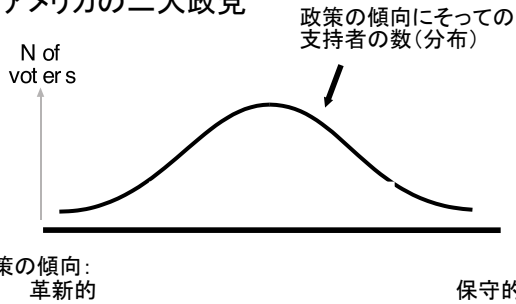
- 日本の場合の事例研究

- 「日本の投票参加モデル」 綿貫譲治・三宅一郎 『環境変動と態度変容』木鐸社、1997、所収

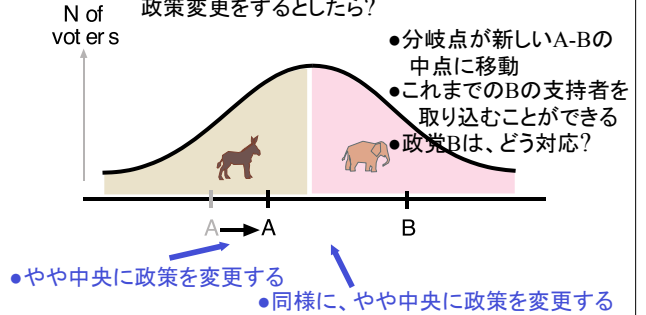


## 投票方向の説明

- 空間立地論の応用
- アメリカの二大政党



- 支持者の分岐点
- そこで、支持者を二分
- より多くの支持者を獲得するために、政党Aが政策変更をしたら?

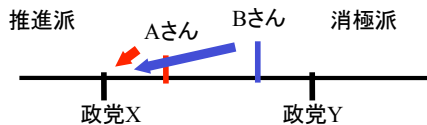


## 空間理論の実証

- 実証例--三宅論文
- 世論調査による適合・不適合の割合

### 適合・不適合とは

原発利用:



- 自分の政策位置に近いXに投票したAさん  
**適合** --- ダウンズの説明が「適合」している。
- 自分の政策位置に遠い方のXに投票したBさん  
**不適合** --- ダウンズの説明が「適合」していない。



三宅一郎1990.『投票行動』東大出版会 p. 155

表4-6 最短距離選択モデルの適合率(%)

投票政党	
適合	
一義的適合	29
非一義的適合	24
不適合	
1ポイント	18
2ポイント以上	25
判定できず	4
計(%)	100
N	820



## 空間理論への批判

有権者の分類(概念形成の度合による)

- 1) 政策や政党をイデオロギーによって判断 2.5%
- 2) 政策や政党をややイデオロギー的に判断 9.0%
- 3) 政党(政策)を社会集団の代表として見ている 42.0%
- 4) 個別な事件との関連で政権担当政党を見ている(戦争を始めた・景気をよくした) 24.0%
- 5) 政策や政党にまったく意見を持たない(無関心) 22.5%



## 3つのハードル

- 争点を認知
- 自己の立場の認知
- 政党の立場の認知

## ダウンズモデルの前提

- 空間の単次元性
- 構造の安定性
- 秩序ある次元の存在
- 政党・有権者の枠組みの共有
- 多次元空間
- 争点は時として変わる
- 対立争点(position-issues)
- 合意争点(valence-issues)
- 有権者の数だけある政治空間